

みらい通信

Ⓛ H16年
3月号

発行 連絡先 NPO法人紫波みらい研究所
〒028-3305
岩手県紫波郡紫波町日詰字郡山駅57-3
電話・FAX 019-676-6103
E-Mail miraiken@shiwa-mirai.com
ホームページ http://www.shiwa-mirai.com

3月中はイベント盛りだくさんでした。
みらい通信 第4号の内容は・・・

第1回 会員交流会 2～3P
2004年3月15日(月) 19:00～

地産地消推進部会主催
第3回ワン・コイン・セミナー 4P
『有機農産物作りへの挑戦』
2004年3月18日(木) 19:00～

これって知ってる?
子牛(和牛)の市場 編 5P
2004年3月18日(木) 雫石町全農岩手中央畜産市場

地元学部会&森と家づくりの会主催
第7回環境探検隊 6～7P
『森は身近に生きている!』
2004年3月21日(日) 9:00～

視察研修受け入れについて 8P

平成16年度分 会費納入のお願い 8P

5月29日(土) 第8回環境探検隊
ボランティアスタッフ募集 8P



お知らせ

探検隊の参加者が、心の思い出とともに経験したことを記録に残せるよう、『隊員手帳』をつくりました。一度だけでなく、リピーターが増えてほしいという願いも込めて・・・

運営スタッフとして動いてくれた方にも過去の参加記録をもとに、ポイントをつけて渡しました。今回の探検隊が5回目という会員さんもいましたよ。ご希望があれば今まで参加した方にもお作りいたします。

隊員の手帳

- ご自身の探検記録を、
- 探検隊の活動記録を記入して、
- 探検隊で活動したことを、隊員手帳に記入しよう。

NPO 法人 紫波みらい研究所
Tel/Fax 019-676-6103

みなさんようこそ！
環境探検隊
ごいっしょに探検
隊員手帳

なまえ:

環境探検隊参加のよろこ		
日	探検隊活動内容	ポイント

ご記入の記録を、
ポイントとして渡すことに
させていただきます。

第1回 会員交流会が行われました！

2004年3月15日(月) 19:00～
紫波町役場第2会議室



【 交流会のようす 】

これまでの紫波みらい研究所の活動といえば、一部の人が集まって、企画して動くというもの。みんなそれぞれ忙しい中、時間をつくって取り組んできました。しかし、集まるメンバーはいつの間にか固定化され、他の会員さんたちの参加や協力体制が整っていなかったのも事実です。そんな中、今回の会員交流会の話が持ち上がりました。

紫波みらい研究所が設立してから3年、今まで様々な活動を行い、多くのものを得て、多くの問題にぶち当たり、いくつもの山を乗り越えてここまでやってきました。その経験を糧にして、今一度、思いのある会員同士が集まって、これからのことをみんなで一緒に考えようということで、第1回目の会員交流会を開催しました。

はじめての会員交流会とのことで、どんな雰囲気になるのかと不安も大いにあったのですが、各部会ともとても活発な議論が飛びかいました。

参加者：総勢 20名 (50音順)

- (役員) 高橋米勝、阿部礼子、阿部昌利、細川栄子
- (会員) 伊藤地歩、江崎澄雄、門脇耕一、川村浩亮、熊谷勝子、佐川旭、杉浦正治、中田久敏、新里光子、藤滝学、松崎勝見、八重畑祐見子、山上里香、吉田修
- (会員外) 笹村忠佑(NPO法人 山仕事くらぶ)
吉田壮一(松尾村・岩手NPOサポートセンター)



全体の流れ

- 1 開会
- 2 紫波みらい研究所 これまでの活動
- 3 交流会
- 4 各部会ごとのまとめ
- 5 閉会

【 本日のおしながき 】手づくりのオカズ、好評でした

地産地消推進部会、
お手製による

- ・切り干し大根の煮物
- ・おからの炒り煮
- ・白菜と大根の漬物
- ・煮豆

紫あ波せおかき

(醤油、ゴマ、ヒエ、発芽玄米、青豆、リンゴ)



紫波みらい研究所の活動の中心にいる会員は、町民も、それを支える行政の方々も、100年後の紫波町を思う気持ちは一緒。そこに町外の会員さんや、みらい研究所の活動に興味を持って集まってくれた方々が加わり、自分の仕事や役職とかに関係なく、同じテーブルに付き活発に話げできたことがとても嬉しく思いました。

そして、今回の交流会を通じて、みらい研の活動をより充実していくためには、会員同士のつながりが非常に大切なのだ学びました。会員同士、町民同士が顔の見える関係であればこそ、助け合い、協力し合って行けるのだと思います。

【各部会で話し合われたこと 抜粋】

紫波・地元学部会

- ・普段知らない場所に行けば、発見や気づきが生まれる。探検隊の案内役は「教えた」というアピールを強くしてしまうのではなく、参加者が何に興味や疑問を持ったのかを引き出していくことも必要。
- ・紫波の案内人の掘り起こしが必要。継続的に探検隊を展開していくためには人材育成も大切である。
- ・子どもが積極的に参加できるよう、30代の親の世代に参加してもらうような働きかけが必要。
- ・意識のない人を引っ張るよりも、意識のある人を高め関心のある人の範囲を広げていくことが大事。
- ・環境探検隊を子どもたちの『気づきの場』として提供したい。こちらから用意周到に準備して型にはめしてしまうのではなく、子どもたちの感性を引き出したい。

紫波・森と家づくりの会

- ・第7回環境探検隊では、全面的に協力する。アンケートや現地取材などで参加者の声を集め、今後データベースとして活かしていけるようにしたい。
- ・人の目を森に向けてもらう啓発活動として、森家の会がお勧めするビデオ上映や木工品づくりなどの企画も良いのではないかな。
- ・森家、匠の会など、紫波には名人(職人)がたくさんいる。そういう人たちの話を聞き、身近に知って感じてもらう機会をつくりたい。地元の匠を知ることは、きっと地元を知ることにつながる。
- ・(佐川さんより)都会から紫波町に子どもを呼び、紫波の森から生まれた学校を体感してもらうという企画の案がある。そこで地元の子どもたちとの交流により、人と人をつなげる場をつくりたい。

地産地消推進部会

- ・目的を見失わないように、『地産地消』とは何か、もう一度原点に返って考え、今年も活動していきたい。
- ・いろいろな事業に手を広げすぎると目的が曖昧になるので、事業を焦点化して取り組んでいくこと。
- ・地産地消の考え方を多くの人に深く理解してもらうためにも、当面はワン・コイン・セミナーの充実にも力を入れる。
- ・子どもたちは体験を通して興味を覚える。「食育」はテーマが大きすぎるが手法を吟味して検討していく。



【参加者からのコメント】

- ・今回の会員交流会も、最初は雰囲気硬すぎた。もっとやわらかいムードで進めていけるような配慮が必要だと思う。
- ・参加者を多くし、部会ごとの企画案がもっと充実したら良いと思う。
- ・他の人の意見が聞けてよかった
- ・手づくりのおかげ、とてもありがたかったです
- ・次回も何か考える手伝いをしたいです
- ・自分に何ができるか、そして自分探しをしていきたい
- ・交流会というより、懇親会のようなものの方が良いのではないかな
- ・定期的に交流会があれば良いと思う。コミュニケーションが必要。
- ・大変良い活動だと思いました。またいろいろお手伝いさせてください。
- ・参加者が飾らず、気楽に、普段のままの気持ちでいられるようなムードづくりができればと思います。
- ・今回のような交流会が継続され、「幽霊会員」「義理入会会員」が減り、本来の会員が増えていけば良いですね。
- ・次回は会費制か何かにして、お花見交流会がしたいです。

今回参加できなかったみなさまも、次回、ぜひご参加下さい。

一番後ろのページに、
会費納入のお知らせがあります。

地産地消推進部会 主催 第3回 ワン・コイン・セミナー 『有機農産物作りへの挑戦!』報告

3月18日(木)、日詰商店街なんバザホールにおいて、3回めのワン・コイン・セミナーを開催しました。参加者は、みらい研の会員さんや、商店街の方々、口コミなどで、総勢29名でした。



今回スポットを当てたのは、みらい研の会員であり、盛岡市で農業を営む江崎澄夫さん(グリズファーム代表)。

有機農産物を育て、会員制の宅配システムを構築し、消費者と顔の見える農業を実践しています。お話の合間に奥様特製のスープとパスタに舌鼓を打ちました。

前半は仙台での塾経営から、有機農業へ転進した動機や、江崎さん流の野菜の育て方・売り方、それにまつわる苦労話などを伺いました。

後半はフリートーク。話を聞きに来た参加者の中には農業を営む人もいて、利益につながる農業はなかなかできないことや、生産者は作ることはできるけど売り方を知らないから苦労しているなど、営農の難しさを感じ取れる意見が出ていました。



地産地消推進部会 八重畑祐見子さんのコメント

江崎さんのお話を伺って、安全・安心な野菜を提供しているという自信が感じられ、それを消費者に分かってもらうための努力をすることが大切なんだなと思った。『楽しみながら仕事をする』『喜びを感じながら生きる』という言葉が、とても心に残った。誰でも、どんな仕事をしている人にも通じるものがあり、自分の生き方も考えさせられるお話だった。参加者の発言があって良かったが、商店街の人の声をもう少し聞きたかった。

日詰商店街 原シューズ店の原昌さんのコメント

「収益を考えなければこんなにも楽しく奥の深い職業はないと思っている」の一言に感動。商家だって同じで、いろんな人と顔をあわせ、お話できる喜びはひとしおです。江崎さんのお話を聞き、子供の頃実家で働いた農業を思い出しました。とても楽しいセミナーでした。

参加者アンケートより

1 年齢

- ・~20代 1名
- ・30代 2名
- ・40~50代 11名
- ・60代~ 12名

2 性別

- ・男性 8名
- ・女性 14名
- ・無記名 4名

3 この企画をどこで知ったか

- ・知り合いからの口コミ 9名
- ・所属組織から 12名
- ・新聞、商店街ポスターなど 5名

4 参加した動機

- ・地産地消に興味があって 16名
- ・講演テーマに惹かれて 2名
- ・友人の誘い 2名
- ・所属組織に誘われ 5名
- ・その他 何をやっているのか見たかった

5 「地産地消」という言葉を知っていたか

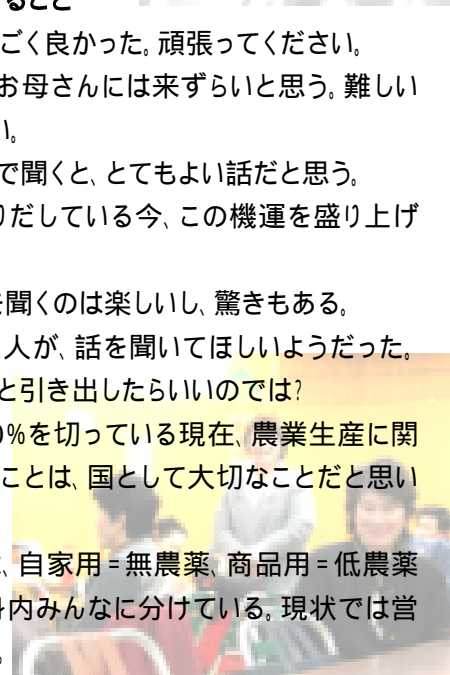
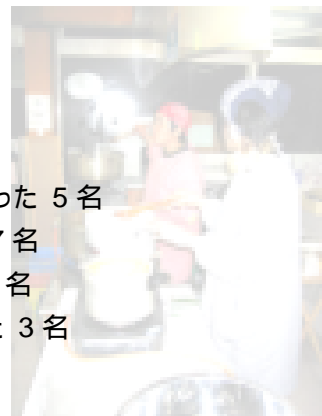
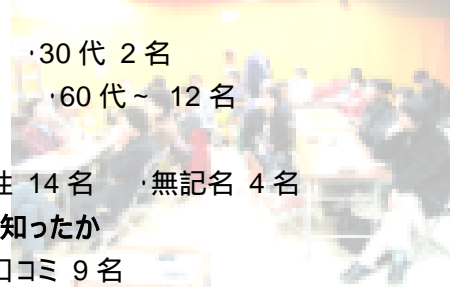
- ・行政関係者から聞いて 18名
- ・本で読んで 2名
- ・はじめて聞いた 2名
- ・その他 4名

6 セミナー内容について

- ・はじめて聞く話で勉強になった 5名
- ・考え方が近く共感できた 7名
- ・聞いていて興味がわいた 8名
- ・考え方が合わず残念だった 3名
- ・その他 3名

7 感想/今後期待すること

- ・話がはずんですごく良かった。頑張ってください。
- ・時間帯が、若いお母さんには来づらいと思う。難しいが来てもらいたい。
- ・学校等のクラスで聞くと、とてもよい話だと思う。
- ・「食育」が流行りだしている今、この機運を盛り上げてほしい。
- ・他人の体験談を聞くのは楽しいし、驚きもある。
- ・話を聞きに来た人が、話を聞いてほしいようだった。講師の話をもっと引き出したらいいいのでは?
- ・食料自給率 40%を切っている現在、農業生産に関わる人が増えることは、国として大切なことだと思います。
- ・この辺の農家は、自家用=無農薬、商品用=低農薬の二本立てで身内みんなに分けている。現状では営農は大変難しい。
- ・農家と他産業の交流をこれからも続けてもらいたい。
- ・スープもパスタも大変おいしくいただきました。
- ・パスタは辛すぎてうまみがどこかにいってしまった。

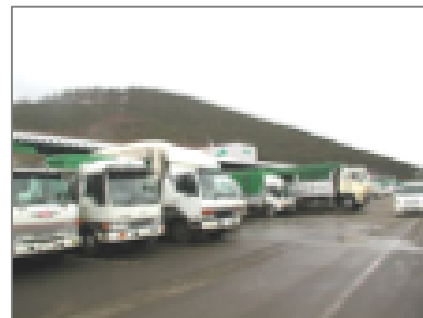


これって知ってる？ 子牛(和牛)の市場 編

2004.3.18

全農岩手中央家畜市場(2日め): 雫石町
レポーター: 会員 伊藤地歩

牛飼いである細川栄子さん(理事)に連れられ、子牛の市場にやってきました。市場に来ているトラックを見ると、山形や栃木や横浜、なんと宮崎ナンバーまで! 岩手生まれの子牛たちが買われて県外で育てば、肉になるときは県外産の牛肉として販売されるそうです。ということは、山形ナンバーのトラックに乗せられた岩手の子牛は、もしや米沢牛に? 「地産って?」という思いが頭をかすめました。ふだんの食生活の中で、<肉>に触れる機会があるものの、実際に<牛>に触れたことがなかった私は、見るものすべてが新鮮でした。



市場で取引されるのは、**繁殖農家**が育てた子牛で、だいたい生後8ヶ月~1年たっています。それを買って肉牛として育てる人たちを**肥育農家**といいます。

子牛と聞いていたので、人が抱けるくらいのおおきなのかと思っていたのですが、すでに体重200~350kgもあり、これで子どもなのかとびっくりしました。近くで見ると、まつ毛がクリンとしてカワイイ。

あどけない表情の子牛たち

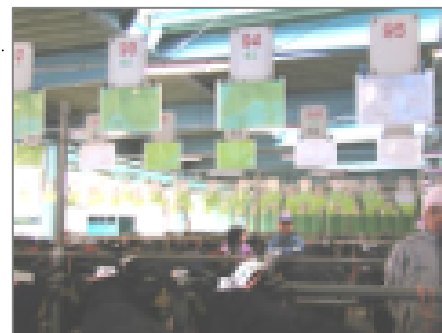
会場は、少しでも高く売りたい繁殖農家の方々と、お眼鏡にかなう子牛を見つけようと集まった肥育農家の方々と、数多く並んだ子牛たちですさまじい熱気! そして、あまりにも無造作に排出される子牛たちの排泄物の熱気とが混じりあい、とてもエキサイティングな雰囲気でした。

育った環境を細かくチェック

今日、市場に出された牛は470頭弱。

牛の頭には(出場番号)と(体重)を示した紙が結ばれています。

そして、子牛の頭上には『上場牛申告書』なるものが吊るされており、「濃厚飼料は何を食べているか」「祖飼料は何か」「稲わらは国産か輸入か自家産か」などが細かく書かれていました。



肉牛にオスはいいない?

手元にもらった「和牛市場上場牛名簿」を見ながら牛を観察していると、牛の性別は(雌)と(去)に分けられており、「去?」と疑問を持ちました。

栄子さん曰く、人と同じで、メスは全体にサシ(脂肪)が入りやすいけど、オスは放っておくと筋肉質になり、肉が硬くなって食べるとおいしくない。そのため、オスは子どものうちに潰してしまって(正確に言うと、玉ちゃんをつながっている線を潰して切断する)ニューハーフにする。

去=去勢とのことでした。しかし肉量が多いのは、去勢といえどもオスの牛なので、市場でもいい値がつくそうです。…(つづく)



スペースがなくて書ききれません。続きはホームページで紹介します。
なお、子牛市場はだれでも見学できるようですが、興味のある方は訪れてみてはいかがでしょうか。

地元学部会 & 森と家づくりの会主催

春休み特別企画!

第7回 環境探検隊 『森は身近に生きています!』2004年3月10日(日)

今回の見どころ

その1 比べてみよう

山屋地区の手入れをした森で、15年育ったスギ林と35年育ったスギ林、そして100年育ったスギ林を見比べました。

その2 山男・森男流 森の守り方

同じく山屋地区内の森で、ふだん見ることのできない間伐や枝打ちの作業を見学し、森林保全についての説明を聞きました。

その3 お昼ごはんは「干し葉汁」

参加する子どもたちや親たちに、郷土料理の味を伝えたいという思いから、山屋のお母さんに協力をいただいて、干し葉汁をいただきました。
(注:「干し葉」とは、大根の葉を冷たい風にさらして干した、昔から伝わる保存食です)

その4 森は身近に生きています!

滝名川沿いの森林から切り出された南部アカマツが、虹の保育園に使われました。森を見学し、伐り出された木がどの部分に使われているのか、完成ホヤホヤの虹の保育園で実見しました。

子どもたちに伝えたかったこと

— 今回の探検隊は、子どもたちや子どもを育てる親の目を森に向けて、森に興味を持ってほしいという思いで企画しました。紫波町がすすめる森林資源循環の取り組みと歩調を合わせる形で結成された「森と家づくりの会」のみんなが山の案内人を務め、人と森の歴史について、森林の役割、木のために木を伐ること、地域の木を地域で使うことの大切さなどを、実際に現地を見せながら説明しました。

小さな子どもにとっては少し難しい内容だったかもしれませんが、木に触れたり、森林の中を歩いたりする体験の中から、言葉では表すことのできない何か、心の中に生まれるのではないかと考えています。

運営スタッフのみなさん

- (山の案内人) 高橋米勝、菅原和博、八重畑忠、八重畑修、新里芳雄 (全体統括) 松崎勝見
- (写真・取材スタッフ) 門脇耕一、川村浩亮
- (縁の下スタッフ) 細川栄子、多田祥一、中田久敏、森川一成、藤滝学、鎌田一元 (鳥笛製作) 依田一裕
- (ガイドブック製作) 伊藤地歩



スツツノの戸

— 一人でも多くの子どもたちに、木のぬくもりや山のすばらしさを伝えたい、子どもたちの気づきの場にしたかった。今回やってみて、もう少し掘り下げたいところもあったので、今後も継続して企画したい。今後は地域の工務店や設計士の方々にも、参加できる人から来てもらうよう、呼びかけていきたい。(山の案内人・高橋米勝)

7回目の探検隊では、15年 35年 100年生の3種類の杉林を見学してもらいました。それは森を形づくる樹木が育つには長い長い年月がかかることと、人間が何世代も引き継ぎながら育てていること、そして森林の循環は永遠に続くことを知ってもらいたいからです。子どもたちが将来、今回の体験で永遠なるものに目を向けてもらえれば幸いです。(山の案内人・菅原和博)

最初に山に行き、各年数の木を見せて、山を生かすために間伐などの手入れが必要であるという説明をしたことが、子どもや大人の理解を得たように思われる。資源の循環をすることによってより多くの良いことがあるのだという説明を、聞き手の立場になって説明することが大切だと思った。こういう体験を一人でも多くの子どもや大人に経験してもらい、裾野を広げることが大切だと思う。(山の案内人・八重畑修)

参加していた子どもたちの眼が輝いていて、それを見る親の顔もほころんでいた。木を育てた人たち(先祖)の思いを馳せて、やっぱり人は身の回りの自然・環境と共生していくのが一番だと思った。今回参加した人たちは、得をしたと思った。(縁の下スタッフ・中田久敏)

参加者の声 アンケートより

今回の企画をどこで知りましたか?

- (1) 学校からの連絡 15人
- (2) みらい研ホームページ 1人
- (3) 新聞 1人
- (4) 知り合いの紹介 1人

今回参加した感想を聞かせてください。

- (1) 楽しかった 14人
- (2) まあまあ楽しかった 1人

今回、一番印象に残ったことは何ですか?

- (1) 森林の間伐作業の見学 8人
- (2) 干し葉汁を食べた 5人
- (3) 虹の保育園の見学 1人
- (4) その他 鳥笛 3人

環境探検隊に参加したのは何回めですか?

- (1) はじめて 18人

今後、どんな企画があったら参加したいですか?

- ・川遊び ・生きもの見学 ・外で遊ぶようなもの
- ・昔ながらの遊び ・子どもと参加したい ・昆虫観察
- ・野鳥観察 ・雪合戦 ・木工を作る会 ・山菜取り
- ・田植え、稲刈り体験 ・川遊び ・ネイチャーゲーム



紫波の森が息づく虹の保育園



プレゼントの鳥笛も好評でした

感想/メッセージ

- ・ 木を切るところを見たのがおもしろかった。今日知ったこと 「もう大きくなならない木を切る」「木が酸素をつくる」(6歳・男性)
- ・ 木がすごかった(7歳・男性)
- ・ 楽しかった(9歳・男性)
- ・ とても楽しかった(9歳・女性)
- ・ 山の仕事を見れて楽しかった(9歳・男性)
- ・ 学校の授業でならった「間伐」や「枝打ち」などが実際見る事ができてよかった。今度は川遊びやネイチャーゲームなどをやってほしいです。(11歳・女性)
- ・ 社会で習ったばかりの枝打ちや間伐のことの復習になったし、他にも木のことがいろいろわかってよかったです。ぜひまたこのようなことをしてほしいです。(11歳・女性)
- ・ ちょうど、間伐や枝打ちについて社会で勉強したので、とても勉強になった。次回やる時も参加したいです。(11歳・女性)
- ・ 木や山について何も知らなかったのでとても勉強になりました。貴重な木でつくった保育園はとても温かみがあって素晴らしかったです。(39歳・女性)
- ・ 時期的に少し寒かったが、お天気に恵まれたので救われました。今回は子どもより大人の方が興味深かった内容だと思います。(38歳・女性)
- ・ 紫波町内に住んでいながら町内のことを知らないのので、子供と一緒に参加しました。町内の木材がたくさんあること、また、その木材を利用しての虹の保育園。ぬくもりのある園が出来上がり、素晴らしいことだと思います。これからも、町内のこと、自然環境のことに気をくばっていきたいです。(41歳・女性)
- ・ 山の仕事などを見られてとても勉強になりました。(40歳・女性)
- ・ 子どもたちが自然に触れる機会が、昔よりずいぶん減っています。今後も様々な企画を期待します。(女性)

当日使用したガイドブックや鳥笛がほしい方は事務局までご連絡ください。
(数に限りがあります)

紫波町の循環型まちづくり 視察研修を受け入れています！

紫波みらい研究所では、紫波町の循環型まちづくりに関する視察・研修についての受け入れを行っています。循環型まちづくりの取り組みや、森林資源循環を目指す公共施設の木造建築、有機資源循環を行うエコセンターなど、平成15年度は21団体の視察研修を案内しました。(資料による説明と現地視察案内)



3.12 中国5県東京事務所会の視察風景

これまで行ってきた視察内容の例

- ・紫波町の循環型まちづくりの概要と紫波みらい研究所の活動状況
- ・木質バイオマスペレットボイラーについて
- ・森林資源循環と森林の有効活用について
- ・循環型まちづくりと地域活性化の取り組みについて
- ・堆肥製造の取り組み内容 などです。

平成16年度分 会費の納入をお願いいたします

紫波みらい研究所は、これからも、町民同士や行政との連携を深め、紫波町の未来のために、今できることから行動していきたいと思えます。

それはすぐに結果ができることではないかもしれませんが、しかし、たとえゆっくりでも、小さなことでも、ひとつひとつ思いを形にしていくことによって、未来は変わると思えます。今の子どもたちのためにできることは、机の上の議論ではなく、「本物」を見せてあげる場をつくる『行動』であり、そしてそれが次の世代の子どもたちへとつながっていくのではないのでしょうか。

現在会員のみなさまには、来年度も引き続きご協力をお願いいたく、16年度分の会費の納入のご案内をさせていただきます。

また、みらい研究所の活動を維持し、発展させていくためにも、資金面でご助力いただける賛助会員も募集しています。

年会費 個人会員：2,000円

賛助会員：10,000円

会費の納入は、事務局に持参していただくか、振込をお願いいたします。

振込みは以下のどちらかに

岩手中央農業協同組合 紫波町役場出張所 普通口座 4217490 口座名義：紫波みらい研究所 郵便貯金総合通帳 記号 18390 番号 12505671 口座名義：NPO 法人紫波みらい研究所

募集！

第8回環境探検隊 写そう！ぼくらの“まち”を「デジタルカメラ環境探検隊」(仮称)のボランティアスタッフを募集します！！

紫波みらい研究所&キヤノン株式会社 共同企画

この企画は、紫波町が平成15年11月に「循環・共生・参加まちづくり」環境大臣表彰を受賞したことに注目したキヤノン株式会社から、記念事業「子ども探検学習支援プロジェクト」として提案されたものです。子どもたちにデジカメを渡し、楽しみながら紫波の自然を撮影することにより、身近な自然への関心を深め、環境保全意識を高めることを目的としています。

実施内容

町内の西部に位置する水分地区2箇所です。自然体験学習をかねた写真教室を開催します。全体の運営はみらい研が行い、記録・機材の提供および写真教室指導の人的サポートはキヤノンが対応します。専門家から写真撮影のコツや撮り方、自然の楽しみ方を学びます。子どもたちが撮った写真は、公共施設などで展示会を行います。

実施日：5月29日(土)午前・午後 2回 写真教室開催予定

今後の企画打合せから参加していただける方、ならびに当日お手伝いをしていただける方を募集します。